



「笑顔」輝くまち

A City of Smiles

コミュニティ 地域福祉 健康 子ども・子育て・若者
長寿・介護 障害福祉

「誰もが自分らしく生きられるまち」をめざして

Aiming to Be a Place Where Everyone Can Live Their Lives Their Own Way

さまざまなコミュニティ活動を進め、地域と行政が共に地域の課題に取り組むまちをめざしています。

また、子どもから高齢者まで、国籍や文化などの違いにかかわらず、障害のある人もない人も、お互いを大切に、誰もがいつまでも元気に活躍できるまちづくりを進めています。



健康フェア(草津川跡地公園de愛ひろば)

Kusatsu aims to be a city which promotes a variety of community activities and where the community and government work together to address local issues. In addition, Kusatsu is working to make this a place where everyone, from children to the elderly, of all nationalities and cultures, with or without disabilities, will look after each other and be able to remain active and healthy throughout their lives.



キラリエまつり



KIFA(草津市国際交流協会)日本語教室

人や思いがつながるまち A Place Where People and Ideas Interconnect

価値観の多様化、地域社会におけるコミュニティの希薄化などにより、市だけでは解決できない問題が増えています。平成26(2014)年に「草津市協働のまちづくり条例」、平成29(2017)年に「草津市立地域まちづくりセンター条例」を施行し、これまで進めてきた協働の取り組みをさらに前へと進めてきました。

また、令和3(2021)年にはキラリエ草津(市民総合交流センター)を開設し、地域の課題を「自分事」として捉えて活動するきっかけづくりや、国籍や文化などの違いにかかわらず、地域で活動している人がつながる場づくりを行っています。

まちづくり協議会 ~地域ぐるみの住民自治組織~



草津市まちづくり協議会連合会

まちづくり協議会は「草津市協働のまちづくり条例」に基づいて市が認定した、地域を代表する総合的な自治組織です。小学校区に一つずつ、計14の協議会があります。「自分たちの住む地域は自分たちでつくる」という理念のもと、住みよい地域づくりに取り組んでいます。

各地域のまちづくり協議会では、地域づくりのビジョンとなる「まちづくり計画」を策定し、各地域まちづくりセンターを拠点として、さまざまな活動を行っています。

地域のつながりを深める 絆づくり

- ・ふれあいまつり
- ・サロン運営 など



地域ごとに開催される
ふれあいまつり

地域ぐるみで行う まちづくり

- ・防災訓練
- ・環境美化活動 など



かまどベンチを
使用した防災イベント

地域の実態にあった まちづくり

- ・地域まちづくりセンターの交流スペースを利用したカフェ事業
- ・地元食材を使った商品開発 など



地域まちづくりセンターの
交流スペースをカフェとして活用

一人ひとりが「住んで良かった、住み続けたいまち“くさつ”」と実感できるまちへ

まちづくり協議会は市内14学区・地区にあり、各地域において住民が自分たちのまちのことを考え、さらに住みよいまちづくりを行う住民自治組織です。次世代に向けた人材育成や事業の見直しなどの課題がありますが、各地域まちづくりセンターには住民の皆さんが集い、語り合い、触れ合い、にぎわえる活動の場であってほしいです。連合会としても、各協議会の思いを受け止め、市との連携を強くしていきたいと思ひます。



草津市まちづくり協議会連合会
会長 中谷 緑郎さん

草津のまちづくりを応援する中間支援組織として、NPOやボランティアグループ、地域まちづくり協議会の活動をサポートしています。一つひとつの活動に寄り添い、共に考え、一緒に乗り越えていく伴走支援を心掛けています。事業団設立から今年で40周年を迎えました。これからも人と人とのつながりを大切にしながら、一人ひとりが輝ける「草津のまちづくり」の応援団として頑張ります。

(公財)草津市コミュニティ事業団
くりた まりこ なかじ むつみ かわうち やすひろ なかむら しき
(下から)栗田 真理子さん、中辻 睦規さん、河内 康宏さん、中村 志希さん



一人ひとりの思いに寄りそう

Helping People One at a Time



近年、生活様式や社会環境が大きく変化しており、一人ひとりが抱える悩みも、多様化、複雑化しています。草津市では、複数の部署や機関が連携し、包括的な支援を行うため、平成30(2018)年に福祉の総合相談窓口である「人とくらしのサポートセンター」を開設し、関係機関などと連携しながら、支援のネットワークづくりや、継続的な伴走支援を行う体制づくりを進めています。

また、子どもや若者、その家族をサポートする「子ども・若者総合相談窓口」や、障害児者等をサポートし、地域の相談支援の中核的な役割を担う「基幹相談支援センター」を開設するなど、総合的な相談体制の強化に取り組んでいます。



相談の様子

草津市社会福祉協議会は昭和30(1955)年4月に創設し、来年4月に創設70周年を迎えます。各小学校区の学区社協と共に歩む市社協として、住み慣れた地域の中で、誰もが安心して生活ができるように取り組んできました。また、昨今多様化する地域の生活課題の解決を図るために、地域の福祉力をより一層高めたいと考えています。



(社福)草津市社会福祉協議会
しみず かつひろ
会長 清水 和廣さん

私たちは、市内で活動している心身障害児者等福祉関係13団体で構成され、障害児者と地域の人々の交流の場、障害者理解の促進など、社会のあらゆる障壁をなくす活動に取り組んでいます。地域において、生きづらさを抱える障害者とその家族が孤立することなく、障害がある・なしにかかわらず、誰もが安心して暮らすことのできる「自立・安心・共生」のまちになってほしいです。



(特非)草津市心身障害児者連絡協議会
わくい やすたか
事務局長 涌井 康貴さん

元気で長生きするなら草津

Kusatsu - A Place Where Everyone Can Live Long, Healthy Lives

健康は「自らつくるもの」であり、市民一人ひとりが主体的に取り組むことが大切ですが、一方で個人の努力だけで維持できるものではなく、家庭や学校、地域などが協働して健康づくりを進めることが重要です。

草津市では、がん検診をはじめとした各種けん診の受診率向上を図る取り組みを行うなど、病気の早期発見・早期治療に向けた環境づくりを行っています。また、草津栗東医師会、草津栗東守山野洲歯科医師会、びわこ薬剤師会などと連携した生活習慣病予防啓発のイベント開催のほか、野菜を120g以上使った料理を市内飲食店で提供することや、健康推進員による食育の啓発などで健康寿命延伸を図り、誰もが元気で長生きできるまちになるよう、取り組みを進めています。



健康推進員による生活習慣病予防の啓発(メタボパス)

「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、市民の皆さんの健康な食生活、運動、けん診受診を促す活動をしています。健康を伝えるために、まずは自分たちの健康を守りながら、地域の特性や各世代に合った食育活動をしていきたいです。一人ひとりが、健康を大切に、地域全体で支え合う、笑顔や活気のあるあふれるまちになってほしいと思っています。



草津市健康推進員連絡協議会
なかし まゆみ
会長 中西 真由巴さん

子どもを産み育てるなら草津

Kusatsu Is the Perfect Place to Raise Children



子どもは、社会の希望であり、未来を担うかけがえのない存在です。草津市では、施設整備や保育人材の確保に努めているほか、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を行うワンストップ窓口である「子育て相談センター」や、「ミナクサ☆ひろば」「ココクル♥ひろば」の2つの子育て支援拠点施設を中心として、各中学校区に子育て広場を設置し、親子の交流や子育て相談ができる環境整備を行っています。

さらに、令和5(2023)年には「草津市子育て6つの楽だ!」を掲げ、18歳までの医療費助成や乳児の紙おむつなどの購入費助成をはじめ、6つの子育て施策を実施しました。地域と共に子育てを支え、安心して子どもを産み育てることができるまちになるよう、引き続き取り組んでいきます。



子育て支援拠点施設「ミナクサ☆ひろば」



図書館本館(児童コーナー)

頼れる親族や知人が少なく、地域のこともよく分からない中での不安な子育てを経験しました。そのため、仕事や結婚をきっかけに草津市に引っ越してきて、同じような状況を経験した仲間と一緒に、人と人、人と社会をつなぐ活動を始めました。地域とのつながりが、楽しい子育てや安心できる生活には欠かせないと考え「子育て応援フェスタ」や「女性の居場所」など、気軽に参加できるイベントを開催しています。公園や病院、商業施設など、子育てに必要な施設が充実しているのが草津市の良いところですね。



まちのコミュニティハブツナグ
いどたせいこ
代表 井戸田 聖子さん

行き場所、居場所がないという悩みを抱えたママたちが設立し、サークル活動などの子育て支援を行って来ました。大人も子どもも正解が一つではないと気づき、夢や希望を無理と諦めず持ち続けられるように、寄り添い伴走する応援団として活動しています。安心できる人間関係の中で、何をやりたいか話ることができ、力を合わせて夢を実現し合える社会を、地域の方を巻き込みながら実現していきたいと考えています。



(認定特非)
くさつ未来プロジェクト
のぐちまりこ
代表理事 野口 真理子さん

住み慣れた地域で生き生きと暮らす

Staying Healthy and Active in the Community You Know

高齢化が急速に進行する中、認知症は誰もが関わる可能性のある病気となっています。草津市では、令和2(2020)年に「草津市認知症があっても安心なまちづくり条例」を制定し、認知症の人を含む全ての人が安心して生活できるまちの実現をめざしています。

また、在宅医療・介護連携を支援する拠点として「在宅医療介護連携センター」を開設するなど、地域において高齢者の生活を支える医療、介護、予防、住まい、自立した日常生活の支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の展開を進めています。



認知症カフェ

認知症の人と家族の会で、介護者も本人も楽しめる場所があればいいねという話から「認知症カフェなごみ」と「カフェかやぶき」が始まりました。利用者さんから笑顔で「思い切って来てよかった」、「ここがあったから頑張れた」という言葉をいただくと、こちらまでうれしくなります。草津市に、いつでも誰でも行ける居場所がたくさん増えるといいなと思っています。



認知症の人と家族の会
はらだせつこ
原田 節子さん